

資料2-1

順化ケージでのテンの捕獲

- ・ 4月14日（水）午後10時30分頃に、佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションの順化ケージ内でテン1頭を捕獲した。
- ・ 捕獲に至る経緯は次のとおり。
 - 午後8時30分頃
野生復帰ステーション職員が、モニターからの音声により、順化ケージ内で動物の鳴き声及び金属音を確認。
 - 午後9時頃
佐渡自然保護官事務所職員及び野生復帰ステーション職員が順化ケージに確認に向かい、トラバサミを引きずりながら動き回るテンを発見。左前足がトラバサミに挟まれていた。
 - 午後10時30分頃
応援に駆けつけてきた獣医師が、順化ケージ内でテンを捕獲。
- ・ 捕獲したテンの大きさは次のとおりで、性別はオス。これがトキを襲ったもの、これまでに映像で確認できたもの、毛の付着が確認されたものと同一なのかは不明。
頭胴長 約40cm、全長（しっぽ含む）約60cm
- ・ テンは現在、かご罠の中に入れられた状態で野生復帰ステーションの収容ケージ内で飼育。怪我はしておらず、餌も食べて健康状態は良好。現在、引取先を探している。
- ・ 捕獲したテンの毛を採取し、これまでに採取できた毛と同一かどうかについて新潟大学に鑑定を依頼。

テンの捕獲位置・トラバさみ設置位置



● テンがかかったトラバさみの設置 ● 捕獲位置 ● その他のトラバさみ設置位置

【捕獲されたテン】

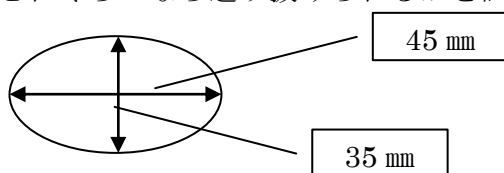


資料2-2

飼育下のテンについて

テンを飼育している井の頭自然文化園で、飼育下のテンについてお話しを伺った。聞き取り内容は次のとおり。

- ・ 生後半年くらいで成獣と同じ大きさに成長する。オスメスの差はあるが（オスの方が大きい）、個体差はそんなにない。
- ・ 餌は果物（バナナ、りんご）、ニワトリの頭骨等を1日一回あげている。鶏頭はかみ砕いて食べている。
- ・ 飼育舎のすきまから子供のテンが手を出して、隣のケージにいるテンが引っ掻いて怪我をさせてしまったことがある。こういった事件を、これまでオス、メスともに起こしている（オスが特に凶暴というわけではないかもしれない）。
- ・ テンの飼育ケージの網は内径 2 cm×14 cmほどの縦長のもの。
- ・ お客さんが近づいてケージに指を入れテンに噛まれないように、ケージの周りに広めに柵を張っている。
- ・ 高さ 35 mm、幅 45 mmの楕円形程度の大きさなら、メスが通り抜けられ、オスは通り抜けられない（ペアリングの際にオスとメスを別の部屋に入れ、その仕切りに穴を開け、メスがどれぐらいなら通り抜けられるかを試してみたことがある）。



- ・ 助走なしで垂直に 100 cmほど跳躍できる。助走があったり、足がかけられるものがあったりすればもっと跳躍できる。金網を登れないように波板等を設置する場合、120 cmぐらいの高さまで設置した方が安心。
- ・ 石やブロックなどに自分のにおいを擦りつける。縄張り意識は強い。
- ・ テンの瞳は横に長く、視野が広いと考えられる（ネコは瞳が縦に長く、視野が狭い）。
- ・ 深さ 20 cm程度の穴はすぐに掘る。穴を確認したらすぐに埋めるので、どこまで掘れる能力があるかは分からない。
- ・ 飼育下では、動物園で繁殖した個体（特に人工哺育したもの）は飼育員に多少慣れるが、野生から動物園に来た個体は網越しに飼育員の様子を伺う程度で、あまり近づいて来ない。
- ・ 4/7にテンが順化ケージに侵入した映像を見た感想として、順化ケージ内の餌を食べているところ等をみると、ケージに慣れている様子で、同一個体が何度も出入りしているような感じがする。

【テンの牙】



【テン飼育舎（鉄骨と金網の接合部分）】



資料2-3

外敵の侵入防止対策について

- ・ 外敵の侵入防止対策について、3月16日に開催した第11回飼育繁殖専門家会合で出された意見、3月24日に上野動物園でお聞きした意見は次のとおり。

1. 第11回飼育繁殖専門家会合で出された意見

【ハード面（施設の改修等）】

- ・ 現在確認されている隙間を塞ぐだけでなく、その後も継続的に状況を確認していかなければいけない。
- ・ テン返しは非常に効果的であると考えられる。外側だけでなく、止まり木にもテン返しを作ったらよい。
- ・ テンが金網を登れないように、金網にトタン板を地面から1m程度の高さに張り、その上側に電柵をつけたらよい。
- ・ 電柵は絶対ではないけれども、かなりの防止効果がある。
- ・ テンが入った場合、トキはテンが入ったことを認識して安全な場所に逃げられればよいので、とまり木の下は水が張ってあるような場所を作ったり、若干の照明をつけたりすればよいのではないか。
- ・ 順化ケージ内に赤外線カメラを設置する。

【ソフト面（監視体制等）】

- ・ 外敵侵入に対してもダブルセーフシステムを作る。例え入られても被害が出ない対策が必要。
- ・ ケージのすぐ傍まで藪があったり草が生えたりしていると、テンも隠れる場所があるから入りやすいと考えられる。侵入するのを確認するため4~5m幅ぐらい周りをきれいに刈るようにする。
- ・ 機械に頼る観察ではなくて、人間の目で観察することが重要。
- ・ 全体的に見ることができると肉眼で見れば、昼間でもどんな動物が傍に来ているのか等が分かるので、モニターだけに頼らずに、順化ケージ内を監視できるような施設を作ったらよい。
- ・ 人間の目と同時に機械によるチェックというのにも必要。例えばセンサーが反応したら夜間でもセンター職員に連絡が行き、すぐ駆けつけるような体制づくりができないか。

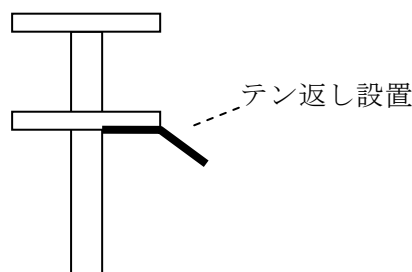
【その他】

- ・ 放鳥時に順化ケージを解放したときの対策について、トキのことを考えて、もう一度チェックが必要。
- ・ テンの実態調査が必要。最低でも、順化ケージの周りにテンが何個体いて、どれくらいの行動圏があって、常時どこまで行っているのかということを知る必要がある。
- ・ 日常業務の中で、どこに本当の責任があったのかということきちんと検証する必要がある。

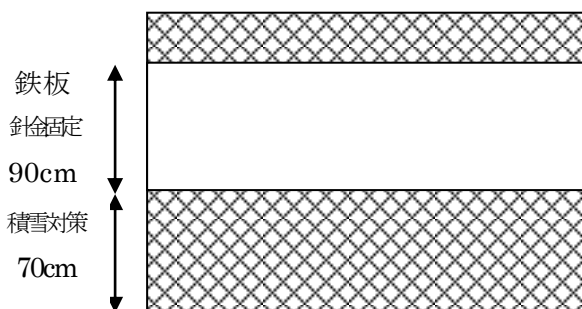
2. 上野動物園で伺った意見（3月24日訪問）

- ・ 3月16日にヘアトラップで侵入が確認できた侵入口手前では、梯子のステップを利用していると思われるので、梯子の接地部での対策も必要。ジャンプして飛びつかないように下をカットする、もしくはステップを取るなどの対策が必要。
- ・ トキが緊急時に止まり木に避難できるように、外灯をつけてケージ内を真っ暗にしない方がよいのではないか。
- ・ 今回の事故では、水の中にいたアイガモが被害を免れたことから、止まり木を水の中に設置することを検討してはどうか。
- ・ 人工とまり木と人工止まり木に自然木を渡すような構造のものを作ることも考えられる。
- ・ テン対策として、止まり木の下部に鉄板やコンクリートを巻くのが有効。
- ・ 屋根に登らないようにH網の途中にテン返しを設置するなどしたらよい（図1）。
- ・ 腰板について、ポリカーボネートよりは鉄板がよい。鉄板の幅は90cmの既製品のものでよい。針金等でしっかり固定すること（図2）。（風の強い）多摩でも風で損傷したことはないので、風の影響はあまり心配する必要はない。
- ・ 電気柵と金網の幅はテンの鼻が触れるようなものがよい。テンの頭骨は40～50mmなので、30mmくらいが妥当。幅が狭いことによる落葉等の障害は電圧板で確認できる。電柵は鉄板の場合は1線式で問題ないが、2線式の方がよりよい。電気を通さない素材の場合は2線式にする必要がある。
- ・ 順化ケージの上部で複雑なことをするよりは下部でしっかり対策を講じるべき。
- ・ 不必要な支柱は撤去することが望ましい。

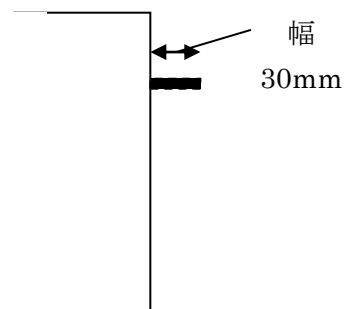
（図1）屋根部分



（図2）側面（正面図）



側面（側面図）



資料2-4

佐渡市におけるテン、タヌキ、イタチの捕獲数

佐渡市における平成16年から20年までのテン、タヌキ、イタチの捕獲数は次のとおりとなっている。

		狩猟			有害捕獲			合計		
		テン	タヌキ	イタチ	テン	タヌキ	イタチ	テン	タヌキ	イタチ
H16	大佐渡	18	215	0	0	7	0	18	222	0
	小佐渡	34	786	1	0	17	0	34	803	1
	計	52	1,001	1	0	24	0	52	1,025	1
H17	大佐渡	3	338	0	0	130	0	3	468	0
	小佐渡	12	531	0	0	24	0	12	555	0
	計	15	869	0	0	154	0	15	1,023	0
H18	大佐渡	6	468	0	0	76	0	6	544	0
	小佐渡	16	955	0	0	27	0	16	982	0
	計	22	1,423	0	0	103	0	22	1,526	0
H19	大佐渡	22	317	0	0	43	0	22	360	0
	小佐渡	12	277	0	0	15	0	12	292	0
	計	34	594	0	0	58	0	34	652	0
H20	大佐渡	9	496	0	0	11	0	9	507	0
	小佐渡	17	433	0	0	22	0	17	455	0
	計	26	929	0	0	33	0	26	962	0